広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	短縮語の使用に関する世代間および男女比較
Author(s)	レベント トクソー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 19期 : 9 - 16
Issue Date	2005-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038842
Right	
Relation	

短縮語の使用に関する世代間および男女比較

レベント・トクソー

1. はじめに

長い語を毎回くり返すのは面倒である。それで、頻繁に使用する単語や表現については、短くして発音する傾向がある。例えば、「告白する」という単語であれば「告る」と表現したりする。携帯電話での電子メールが普及したこともあり、この傾向は、句や単語レベルばかりでなく、文表現にまで拡大される傾向があり、「あけましておめでとう」という表現であれば「あけおめ」と短くしたりする。これらを、短縮語という。短縮語は話し手の労力を軽くするという点で、効率的である。しかし、こうした短縮語は、日本語の単語および表現として完全に認知されているわけではなく、国語辞典に掲載されていないものが多い。そのため、使用する人たちがある特定の世代やグループに限られていたりする。そこで、本研究では、10 代後半から 20 代の若い世代と 30 代から 40 代の中年の世代および男女について、短縮語の使用頻度を調査した。

2. 短縮語の分類

研修の方法を説明する前に、以下の６種類の短縮語の典型的な作り方について、窪薗(2002)を参照にしながら、簡単に述べておきたい。

第１に、「ヘリ」（ヘリコプター)、「アニメ」（アニメーション)、「リハビリ」（リハビリテーション）など、発音的に長い単語が短縮されてできたものである。日本語では、外来語が特に長くなるので、こうした外来語は、ほとんど２から４モーラの長さに短縮される。外来語の短縮語が２モーラから４モーラの長さに収束しているのは省エネと復元可能性という二つの条件を満たすためであると、窪薗(2002)は述べている。

第２に、「セブる」（セブンイレブンに行く)、「テロる」（テロリズム)、「告る」（告白する）など、名詞の語頭の２モーラと「する」の軽動詞の語尾の「る」をつけて作る短縮語である。

第３に、「むずい」（難しい）や「キモい」（気持ち悪い）のように、新しい形容詞が作られる。これらは、単語の始めの２モーラに「い」を付けて作るのが基本である。新形容詞は新動詞の場合と違って、名詞から新形容詞を作るのではなく形容詞を単純に短くするケースが多いという点である。

第４に、原語の最初または後半の部分を残して、他の部分を省略する方法である。初

めを残す例では、「バイト」（アルバイト）や「サテン」（喫茶店）があり、後半を残す例では、「バイト」（アルバイト）、「さてん」（喫茶店）、「だち」（友達）、「がいしゃ」（被害者）などが挙げられる。

第５に、「経済」（経世済民）、「スーパー」（スーパマーケット）、「携帯」（携帯電話）など、複合語は独立性を持つ語どうしが結び合ってできる大きな単語である。複合語を短縮するために「経済」のように両方の要素を部分的に残すパターンと、「スーパー」や「携帯」のようにいずれかの要素をそのまま残すパターンの２種類に大別できる。

第６に、窪薗(2002)では議論されていないが、ある頻繁に使われる表現そのものが短縮される場合もある。その典型的な例は、「明けましておめでとう」の句の始まりの２モーラを取って「あけおめ」と表現するなどである。これらは、携帯による電子メールの交換などで長い表現を短縮する傾向から生み出されているとも考えられよう。

3. 調査の方法

3.1 被験者

10 代後半から 20 代の若い世代に属する 108 名、30 代から 40 代の中年の世代に属する 86 名が被験者となった。性別については、若い世代が、女性 53 名、男性 55 名で、中年の世代が、女性 36 名、男性 50 名であった。この世代と性別の被験者分布に、有意な違いはなかった[$\chi(1)=1.003$, $p=.317$]。さらに、年齢を何歳何ヶ月で聞いていたので、月齢を算出した。世代の違いでは、若い世代が平均が 253 ヵ月あるいは 21 歳と１ヵ月(標準偏差 67 ヵ月あるいは５歳７ヵ月)、中年の世代が平均で 457 ヵ月あるいは 38 歳と１ヶ月(標準偏差 54 ヵ月あるいは４歳６ヵ月)であった。２ (世代; 若い世代と中年の世代)×２(性別; 女性と男性)の分散分析を月齢について行った。その結果、世代には有意な主効果がみられた[$F(1,190)=542.090$, $p<.001$]が、性別の主効果は有意ではなかった[$F(1,190)=2.147$, $p=.145$]。また両変数の交互作用も有意ではなかった[$F(1,190)=0.604$, $p=.438$]。したがって、本研究では、性別は月齢の影響をうけない独立した変数であるとみなすことができる。

3.2 短縮語の選択

日常生活で耳にする短縮語を 21 種類選択した。それらは、短縮語の分類に従うと以下のようになる。

（１） 元の語の語頭の２モーラから４モーラまでに短縮されるパターンの「ケシ」（消しゴム)、「スッチー」（スチュワーデス)、「エアロビ」（エアロビック

ス)、「コネ」(コネクション)、「リストラ」(リストラクチャリング)、「デモ」(デモンストレーション)の６種類。

（２） 名詞の語頭の２モーラに軽動詞「する」の語尾「る」をつけるパターンである「セブる」(セブンイレブンへ行く)、「告る」(告白する)、「スタバる」(スターバックスへ行く)の３種類および音韻的な理由で軽動詞「する」をそのまま付けた「レラする」(連絡する)が１種類で、合計４種類。

（３） 語頭の２モーラに「い」をつけて作られる新しい形容詞のパターンに入る短縮語で、「ムズい」(難しい)と「キモい」(気持ち悪い)の２種類。

（４） もともとの語の後部を残して作る短縮語の「ダチ」(友達)の１種類。

（５） 複合語の両方の要素を部分的に残すパターンの短縮語に入る「パソコン」(パーソナル・コンピュータ)、「ロリコン」(ロリタ・コンプレックス)、「メル友」(メール友達)、「就活」(就職活動)、「エアコン」(エア・コンディション)、「生コン」(生コンクリート)、「着メロ」(着信メロディー)の７種類。

（６） 頻繁に使う表現を短縮した「アケオメ」(明けましておめでとう)が１種類。

3.3 質問紙

本研究のために選択した 21 種類の短縮語について、被験者にそれらの短縮語をどのくらい頻繁に使うかを、１が「全く使わない」、２が「たまに使う」、３が「ときどき使う」、４が「けっこう使う」、５が「よく使う」の１から５まで尺度でたずねた。これは、主観的な使用頻度である。また、被験者の性別と年齢もたずねた。

3.4 調査の手順

若い世代の被験者としては、広島大学の学生および大学院生にお願いした。また、中年の世代の人々について、広島国際空港で飛行機を待っている人々と広島大学の学生課で勤めている方々に質問紙を配布した。

4. データの分析と結果

各短縮語について主観的使用頻度の平均を算出した。その結果は、使用頻度の全体の平均が大きい順に表１に記した。使用頻度の平均の違いからみると、４から５が５種類、３から４が６種類、２から３が５種類、１から２が５種類である。各短縮語の使用頻度についての分析は、世代と性別の２×２の分散分析を行った(以下では、有意でない F 値は報告しない)。表１のように、全体的にみて、世代の主効効果が 12 種類

の短縮語にみられ、性差は５種類で主効果がみられた。また、交互作用は２種類にみられた。以下で各短縮語についてみていく。

4.1 使用頻度が平均で４から５の短縮語

表１に示したように、主観的な使用頻度が４から５の短縮語は５種類であった。順番に分析結果をみていくと、「パソコン」はさすがに、どの世代でも、男女ともによく使われ、有意な主効果も交互作用も有意ではなかった。次に、「エアコン」については、世代差はなく、性差の主効果が有意であり[$F(1,190)=6.269$, $p<.05$]、女性の方が男性よりも頻繁に使う傾向があった。「着メロ」については、世代差[$F(1,190)=27.499$, $p<.001$]と性差[$F(1,190)=3.900$, $p<.05$]ともに主効果が有意であった。交互作用は有意でなかった。若い世代で使われるとともに、女性の方が男性よりも頻繁に使っている。「リストラ」は、世代差のみが有意な主効果を示した[$F(1,190)=9.223$, $p<.01$]。興味深いことに、若い世代でよく使われる傾向があった。「エアロビ」は、世代差の主効果が有意[$F(1,190)=5.954$, $p<.05$]で、また交互作用も有意[$F(1,190)=6.639$, $p<.05$]であった。やはり、若い世代でよく使われる短縮語であり、交互作用は中年の男性にあまり使われない(M=3.44)ことが原因である。

表1　世代別･性別にみた主観的使用頻度の平均および分散分析の結果

短縮語	全体	10代から20代		30代から40代		分散分析の結果		
	平均	女性	男性	女性	男性	性差	世代差	交互作用
パソコン	4.97	5.00	4.98	4.97	4.94			
エアコン	4.77	4.98	4.76	4.83	4.50	*		
着メロ	4.52	4.87	4.82	4.39	3.92	*	***	
リストラ	4.46	4.81	4.49	4.28	4.20		**	
エアロビ	4.04	4.17	4.35	4.19	3.44		*	*
コネ	3.87	4.17	4.00	3.19	3.88		**	*
メル友	3.82	4.23	4.27	3.42	3.20		***	
デモ	3.80	3.66	3.96	3.36	4.10	*		
ロリコン	3.80	4.19	4.24	3.22	3.32			
キモい	3.65	4.58	4.40	2.81	2.46		***	
ムズい	3.38	4.32	4.42	1.83	2.34		***	
コクる	2.99	4.17	4.16	1.67	1.40		***	
就活	2.61	3.62	3.76	1.19	1.28		***	
アケオメ	2.46	3.00	3.20	1.92	1.46		***	
スッチー	2.44	2.68	2.85	2.14	1.94		***	
生コン	2.42	1.83	2.42	2.47	3.00	*	**	
ダチ	1.99	1.70	2.36	1.44	2.30	***		
ケシ	1.74	1.57	1.96	1.56	1.80			
スタバる	1.33	1.28	1.56	1.17	1.24			
セブる	1.07	1.09	1.05	1.08	1.06			
レラする	1.03	1.02	1.00	1.03	1.06			

注1: 全体=194名. 女性=89名. 男性=105名. 10代後半から20代=108名. 30代から40代=86名.
注2: * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

4.2 使用頻度が平均で３から４の短縮語

この範囲の平均には６種類の短縮語があった。まず、「コネ」は、世代差の主効果が有意[$F(1,190)=7.375$, $p<.01$]であり、中年の世代よりも若い世代でよく使われる。また交互作用も有意[$F(1,190)=4.497$, $p<.05$]であった。これは、中年の女性にあまり使われないことが理由である。「メル友」は、世代差の主効果が有意であった[$F(1,190)=26.375$, $p<.001$]。やはり、圧倒的に若い世代で使われる短縮語である。しかし、中年世代でも決して低くはなく、普通程度には使うようである。「デモ」は、ある程度高い頻度を示しているが、性差の主効果のみが有意であった[$F(1,190)=6.425$, $p<.05$]。やはり、男性の方が女性よりも頻繁に使っているようである。「ロリコン」は、やや頻繁に使われる傾向があるものの、世代差および性差の主効果は有意でなかった。「キモい」は、「気持ちが悪い」という意味であるが、世代差の主効果が有意であった[$F(1,190)=111.406$, $p<.001$]。若い世代では、頻繁に使われるものの、中年の世代ではあまり使われない短縮語である。性差がないので、若い世代の男女ともによく使う表現のようである。「ムズい」も世代差の主効果が有意であった[$F(1,190)=178.782$, $p<.001$]。この種の短縮語は若い世代でよく使われるようである。

4.3 使用頻度が平均で２から３の短縮語

この範囲の平均は、それほど頻繁には使わないが多少は使うという程度の表現であり、５種類の短縮語がある。まず、「コクる」は、世代差の主効果のみが有意[$F(1,190)=278.615$, $p<.001$]であった。若い世代でよく使われる短縮語である。「就活」もやはり、世代差の主効果のみが有意[$F(1,190)=175.394$, $p<.001$]である。同様に、「アケオメ」も世代差の主効果のみが有意[$F(1,190)=55.111$, $p<.001$]で、「スッチー」世代差の主効果のみが有意[$F(1,190)=15.220$, $p<.001$]であった。「生コン」については、性差の主効果が有意[$F(1,190)=6.340$, $p<.05$]であり、さらに、世代差の主効果も有意[$F(1,190)=7.628$, $p<.01$]であった。

4.4 使用頻度が平均で１から２の短縮語

この範囲の平均は、５種類の短縮語があるが、ほとんど使わない表現である。もともと使われない表現であるため、「ダチ」において性差の主効果が有意[$F(1,190)=19.244$, $p<.001$]であった。これは、やはり男性が使う傾向の短縮語であり、女性はほとんど使うことがないことが分かる。他の「ケシ」、「スタバる」、「セブる」、「レラする」の４つの短縮語では、性差も世代差もなく、一様にほとんど使われることがない短縮語であることが分かる。

5. 短縮語の使用頻度についての世代差比較

表１からも分かるように短縮語については、基本的に流行があるようで世代差に大きな違いがみられた。そこで、10 代から 20 代の若い世代と 30 代から 40 代の中年の世代での短縮語の平均使用頻度を図１にプロットした。さらに、今回の調査対象となった 194 名全員のすべての短縮語に対する主観的使用頻度である１から５までの変数を使い、スラスター分析によって 21 種類の短縮語を分類した。クラスター間の距離にはウォード法を用い、短縮語間の距離には平方ユークリット距離によって測定した。その結果は、図１のプロット図に追加して表わした。

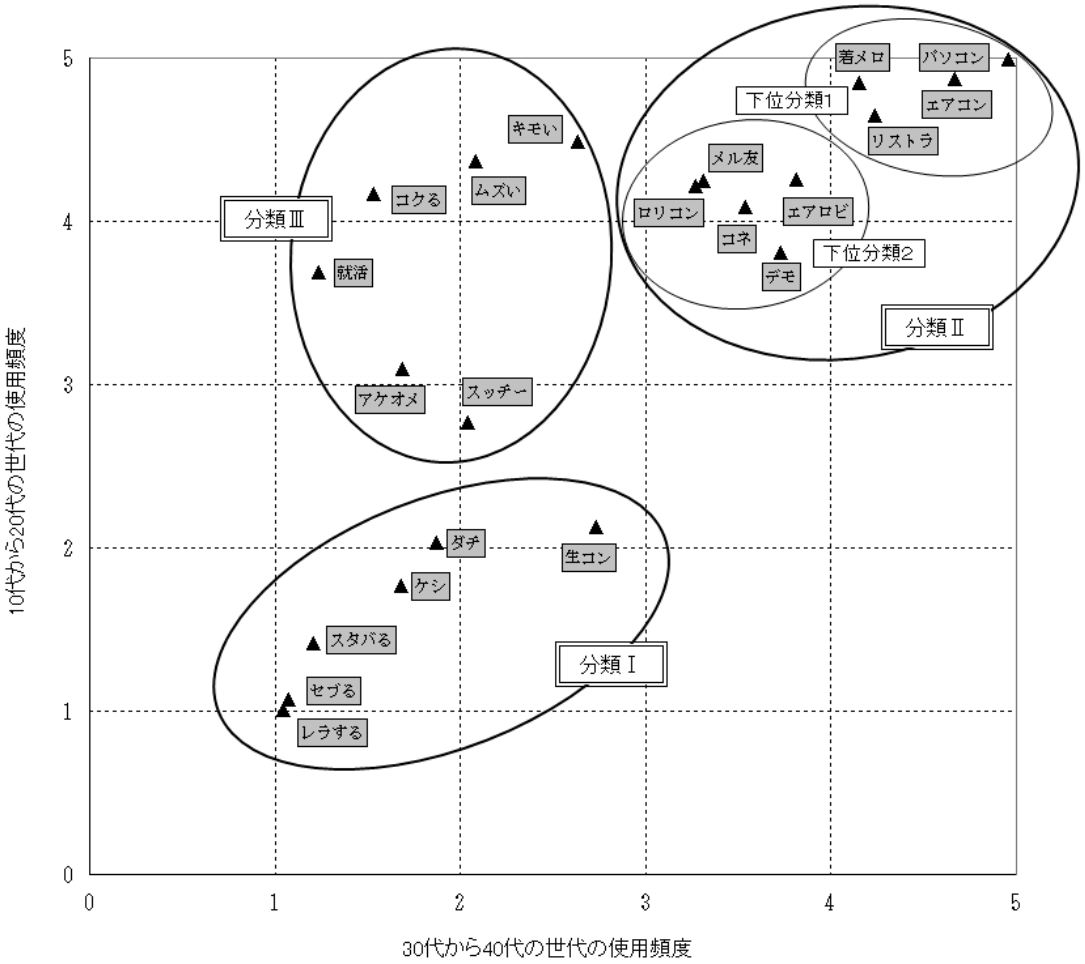

図1　10代から20代と30代から40代の世代の短縮語の主観的使用頻度のプロッテリングとクラスター分析

注1: 図は２つの世代でプロットしたが，クラスター分析は194名全員の主観的使用頻度で行った．

注2: 短縮語数=21．クラスター間の距離はウォード法，短縮語の距離は平方ユークリット距離による．

注3: クラスター分析の結果，分類Ⅰは，分類Ⅱおよび分類Ⅲと最高値25で区別され，分類Ⅱと分類Ⅲは12で区別される．

注4: 分類Ⅱの下位分類1と下位分類2は，4で区別されているので，ほぼ同じ分類であると考えられる．

分析の結果、使用頻度から大きな３つの分類が得られた。分類Ⅰは、分類Ⅱおよび分類Ⅲとクラスター分析の最高値 25 で区別されており、若い世代にも中年の世代にもあまり使われていない短縮語である。この分類には６つの短縮語が入っている。まず、「セブる」と「スタバる」は、それぞれ「セブンイレブンへ行く」と「スターバックスへ行く」の短縮形であり、近年のコンビニやカフェの普及とともに使われるようになった表現である。これに、「連絡する」という意味での「レラする」と表現があり、これらの短縮語はもちろん『広辞苑』(第五版)に掲載されておらず、使用頻度は非常に低い。また、特定の中学・高校生くらいのグループが使うのであろうか、中年の世代はもちろんのこと、本研究の大学生や大学院生の若い世代でもほとんど使用されていない。表１に示した分散分析でも世代にも男女にも有意な違いはないことからも裏づけされる。次にやや高めの使用頻度を示したのが、「ダチ」、「生コン」、「ケシ」である。「ダチ」は「友達」、「生コン」は「生コンクリート」、「ケシ」は「消しゴム」の意味だが、あまり使われない分類Ⅰに入っている。

分類Ⅱは、若い世代でも中年の世代でも頻繁に使われている短縮語が９種類は入っている。その中でも両世代で特によく使われるのは、下位分類１の「パソコン」、「エアコン」、「着メロ」、「リストラ」である。「パスコン」は「パーソナルコンピュータ」の、「エアコン」は「エアーコンディショニング」の外来語の短縮形であり、いずれも家庭に一般的に普及してきた電化製品である。また、「リストラ」もやはり英語の「リストラクチュアリング」の短縮形であり、ここ 10 年で広く使用されるようになってきた。これら３つの短縮語は、『広辞苑』にも掲載されている。「着メロ」は「着信メロディー」の短縮形で、携帯電話の普及で世代を超えて急速に一般化した短縮語である。しかし、興味深いことに、『広辞苑』には掲載されておらず、国語辞典ではまだ認知されていないようである。下位分類２の５つの短縮語は、下位分類１より使用頻度がわずかに低い短縮語であるが、それでも両世代で広く使われている。「コネクション」の「コネ」、「デモンストレーション」の「デモ」、「ロリータ・コンプレックス」の「ロリコン」は外来語の短縮語であるが、いずれも『広辞苑』に記載されている。また、「エアロビクス」は『広辞苑』に入っているものの、その短縮形の「エアロビ」は掲載されていないことも面白い。つまり、オリジナルの外来語は日本語として認知されていても、その短縮形はまだ受け入れられていないことを示している。さらに、「メール友達」の意味の「メル友」は最近普及した単語であり、日本語の短縮語して辞書には入っていないにもかかわらず、若い世代では頻繁に使われ、中年の世代でも普通以上の使用頻度であった。

分類Ⅲは、世代差が明瞭にみられる短縮語である。このグループに入る「キモい」、「ムズい」、「コクる」、「就活」、「スッチー」は、最近若い世代で使われ始めた短縮語であり、中年の世代では使用頻度がかなり低い短縮語である。その中でも、「気持ち悪い」の意味の「キモい」、「難しい」の意味の「ムズい」は、いずれも初めの２モーラ

を残して「い」を付けて形容詞にしている。また、「告白する」の意味の「コクる」も初めの２モーラに「る」を付けて動詞の短縮形を作っており、この種の短縮語は、作り方そのものが新しい。「就職活動」の意味の「就活」という短縮形の作り方は古くからあるものの、この短縮語は若い世代でのみ使われる傾向がある。また、「スチュワーデス」の短縮形の「スッチー」は若い世代で普通に使われるようであるが、まだまだ一般化した表現ではない。さらに、「明けましておめでとう」の短縮形の「アケオメ」については、極めて最近の使い方であり、頻繁に使われる長い表現そのものを短くしている点で新しく、携帯電話での電子メールの普及に関係がありそうである。

6. 考察

トルコ語と比べると、日本語には短縮語が多様である。トルコ語では、外来語の数が少なく、単語を２モーラから４モーラにまで短縮する以外にないので、短縮語を作るパターンが単純である。例えば、日本語では、若い世代なら新しい形容詞を作るために語頭の２モーラに「い」をつけて作ることもできるが、トルコ語の形容詞はすべて同じ音で終わる事はないので、このような方法で短縮語を作ることができない。日本語で単語や表現が短縮される条件として、第１に、単語そのものが長いこと、第２に、頻繁に使われる語であることとがある。本研究で示したように、短縮語の使用は、流行に左右されるものが多く、特定の世代や男女によって使われ方が異なる。

本研究では 21 種類の短縮語を選択して調査したが、「キモい」、「ムズい」、「コクる」、「就活」は、特に若い世代によく使われている短縮語であることが明らかになった。その中で「キモい」と「ムズい」が最近の使われるようになった短縮語であるにもかかわらず、頻繁に使われていた。「着メロ」、「パソコン」、「エアコン」、「リストラ」という短縮語には若い世代にも中年の世代でも使用頻度が高かった。そのなかで「パソコン」や「エアコン」は、日本語で一般化しているために、どの世代でも、男女ともによく使われている。しかし、最近の短縮語である「着メロ」は、若い世代の方がより頻度に使われていると思っていたが、30 代から 40 代の世代でもよく使われていたのは驚きであった。携帯電話の普及が原因であろう。同様に、「メル友」も両世代でよく使われていた。「セブる」、「スタバる」、「レラする」は若い世代である程度使われているかと思っていたが、両世代ともにあまり使われていなかった。

以上のように、日本語の短縮語は、さまざまな作り方と流行とで、特に世代間の違いが顕著なものがかなり見られた。

引用文献

窪薗晴夫 (2002). *新語はこうして作られる*. 東京: 岩波書店.